『計量国語学』アーカイブ

ID	KK290605
種別	追悼
タイトル	水谷靜夫 略歴
Title	Short Autobiography
著者	水谷 静夫
Author	MIZUTANI Sizuo
掲載号	29巻6号
発行日	2014年9月20日
開始ページ	175
終了ページ	176
著作権者	水谷静夫氏の著作権継承者(公開了承済)

水谷静夫略歷

水谷 静夫

日附までは記してない始期は一日、終期はその月の末日.

- 大正 一五年 (1926) 三月二五日,東京市浅草区小島町一九番地(現,東京都台東区小島二 丁目一番一号)に生る。
 - 市立小島小学校(昭和一二年三月卒業),私立東京工業学校(一六年八月末転校),私立立教中学校(一八年三月卒業)を経て,第一高等学校文科第一類に入学(同年四月).
- 昭和 二○年 (1945) 三月, 第一高等学校文科第一類卒業 { 戦時特例にて年限二年に短縮 }. 四月, 東京帝国大学文学部に入学, 次いで戦時特別学生に選ばるれど, ◆ { 徴兵年齢引下げにより } 七月, 東部第十二部隊に入営し, 第二百三十四師団独立追撃砲大隊に配属. 八月 { 戸籍上は翌年六月 } 復員.
 - 二三年 (1948) 九月三○日, 東京大学文学部国文学科卒業. ◆一○月~翌年三月, 同学部大学院学生, 私立正則学院教諭.
 - 二四年 (1949) 二月二八日. 文部教官に任ぜられ国立国語研究所勤務.
 - 三一年 (1956) 計量国語学会設立準備委員会に加はり十二月半ばに同学会設立; 1997 年まで委員 {多くの学界の理事に相当}(代表委員 {会長相当}の期間も含む).
 - 三六年 (1961) 一○月~翌年三月, 京都大学文学部非常勤講師に併任 (言語学担当).
 - 三七年 (1962) 一〇月一日, 国立国語研究所主任研究官に昇進,
 - 三八年 (1963) 一月~三月, 福井大学学芸学部非常勤講師に併任 (国語学担当).
 - 三九年 (1964) 三月, 国立国語研究所を依願退職. ◆四月, 東京女子大学助教授(文理学部日本文学科所属) ◆東京大学文学部非常勤講師(国語学担当).
 - 四一年 (1966) Harvard 大学 Yenching Institute の Visiting Scholar.
 - 四二年 (1967) 七月~八月, 同大学 Computation Laboratory の Casual Research Fellow.
 - 四三年 (1968) 一月~一二月, 能力開発研究所専門委員. ◆四月, 東京女子大学教授に昇任.
 - 四四年 (1969) 十月~四六年九月, 東京女子大学図書館長.
 - 四五年 (1970) 四月~翌年三月, 東北大学文学部非常勤講師 (言語学担当).
 - 四六年 (1971) 四月, 大学院開設に伴ひ文学研究科授業を兼担. ◆四月~翌年三月, 東京大学文学部非常勤講師 (国語学担当).
 - 四七年 (1972) 二月, 斉藤孝 { 東芝 } 他一名との共同研究「法律文に対する論理的推論 を伴う質問回答システムの一方式」に対し日本経営情報開発協会第二回研究 奨励金を授けらる. ◆九月~平成一四年六月, 財団法人計量計画研究所理事.
 - 五〇年 (1975) 四月~五三年三月, 文理学部教務部長.
 - 五一年 (1976) 五月〜翌年三月, 東京大学工学部非常勤講師 (大学院計測工学授業を担当).
 - 五二年 (1977) 四月~六三年三月. 国文学研究資料館情報検索(後に情報処理システ

- ム運用)委員長(この前後も委員,平成八年三月まで).
- 五三年 (1978) 四月~五五年三月&五七年四月~六一年三月, 東京女子大学電子計算 室長. ◆四月~翌年三月, 東京大学文学部非常勤講師(国語学担当).
- 五四年 (1979) 五月~翌年一二月, The 8th International Congress of Computational Linguistics (略称 COLING 8 0) 実行委員.
- 五五年 (1980) 翌年度まで&六一~六二年度, 学術審議会専門委員.
- 五六年 (1981) 四月~六一年九月,日本文学科主任,四月~六一年三月,大学院日本文学専攻主任(共に研究休暇期間6箇月を除く). ◆七月~翌年三月&五七・五八・六○・六一年度に(各七月~翌三月)東京農工大学工学部非常勤 講師(日本語情報処理担当)
- 五七年 (1982) 四月~平成一二年三月国語学会評議員. ◆八月~平成六年六月, 国文学研究資料館運営協議員.
- 五八年 (1983) 四月~六一年三月, 科学技術庁「日英科学技術文献の速報システムに 関する研究 | 研究推進委員会委員。
- 五九年 (1984) 四月~六二年三月, 日本学術振興会「言語の知的処理に関する研究」 開発専門委員会委員.
- 六二年 (1987) 四月, 計量国語学会代表委員 { 多くの学会の会長に相当 } (平成七年まで; 爾後も二年間は委員). ◆四月~平成八年三月, 日本学術振興会第 152 委員会(文字言語・音声言語の知的処理) 委員.
- 平成 二年 (1990) 七月, 大学設置・学校法人審議会大学設置分科会専門委員(平成六年度まで;同三年度は文学専門委員会主査).
 - 三年 (1991) 一月, 第六回山内業績賞(山内記念会)を, 情報処理学会第七回プログラミングシンポジウム(1966)に於ける発表「日本語の語順と逆ポーランド記法」の先駆性・応用性に対して授けらる。 ◆三月, 東京女子大学を依願退職(停年扱ひ). ◆四月~翌年三月, 同大学非常勤講師. ◆五月, 同大学名誉教授.
 - 四年 (1992) ---月〜翌年-月, 法務省より調査委託: 刑法現代語化案 { 参事官室検 討案 } についての国語的観点から見た問題点.
 - 六年 (1994) 七月~翌々年六月, 国文学研究資料館評議員.
 - 七年 (1995) 四月二五日, 刑法の一部を改正する法律案につき参議院法務委員会への参考人.
 - 一〇年 (1998)四月,計量国語学会名誉会員.(終身)
 - ? 某月某日、死す、長野県上田市長瀬の我が家墓地に葬る.